

事例9

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代、肺がん、間質性肺炎治療中の患者。
- ・ 左胸水貯留に対し、呼吸器内科で胸腔穿刺を実施。
- ・ 事前にX 線画像、穿刺直前に超音波画像で胸水の貯留と周辺臓器を確認。穿刺部位は、左肋間を選択。
- ・ 試験穿刺で胸水を確認。カテーテルを留置し、呼吸性変動と約 100 mL の血性排液を確認した。カテーテル留置直後のX 線画像で左胸部の皮下気腫、気胸を認めた。顔面・頸部・前胸部・背部の皮下気腫が出現し、呼吸困難を訴え、CT 検査で皮下気腫と縦隔気腫を認め、翌日死亡。
- ・ 死因は、高度の皮下気腫と縦隔気腫による換気障害。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖無。